「小貫政之助展」に寄せて

東御市梅野記念絵画館
館長　　佐藤　修

１９４５年８月１５日という日付をもって日本は変わり日々の暮らしも落ち着いたとされるが、生身の人間はそう単純には切り替わらない。病んだ心の置き場を探してヤミの中を彷徨い、酒場の暗い灯りのもとで悶々と身を掻き毟った者たちは幾万いただろう。小貫もそうした群れの中の一人であった。戦中・戦後、小貫が棲んだところは、羽村・福生・立川、いわゆる基地の町である。一種独特な環境である。
６０年安保では、騒動の最中にあって帰る場所は米軍横田基地の隣。《敗戦時二十歳であった自分として同世代多数の失われた命に対する葬儀なしには生きることができない。》（日記より）　画家は、焼跡の瓦礫の中、鉄骨をさらして立つビルを美しいと思い、冬の畑に並ぶ葉を落とした桑の株に魅かれ、《母体に対する帰依本能》（1992年刊　小貫政之助作品集所載「年譜」より）のように、好んで「女体」をモチーフに描きつづけた。
小貫は語る。

—美しいと魅せられて描いてきたモチーフを通して何を主張してきたのか、それはイデオロギーでも哲学でもなく、唯その時代環境の中で自分の存在を主張してきたに過ぎないと思うのである。
（中略）蚕が桑の葉を食べて繭を作ってゆくように、私もまた自分の体から出る体液で、仕事を進めたいものと考える。そして、それがまた必然的に自分の生きた時代の証言となり得れば幸いなのだが。　※1974年　小貫政之助・文「桑と女」より

１９８８年（昭和６３年）６月３日、昭和も間もなく幕を閉じようかという年、小貫は立川市錦町の病院で６３歳の生涯を終えた。

2018年　展覧会スケジュール

変更となる場合もございます

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
大展示室	時代の証言者 小貫政之助展 4/8〜6/24				開館20周年記念展 美に焦がれて ー蒐集もまた芸術であるー 伝説の三巨人 洲之内徹・大川栄二・梅野隆の眼 7/1〜9/24			第18回　私の愛する一点展 9/30〜1/14		
ふれあい館	北御牧地区文人群像展 4/8〜6/24							天空の芸術祭 9/30〜10/28	戸津圭之介展 11/3〜1/14	

■2018年イベントスケジュール

4月 8日(日)　小貫政之助オープニング・講演会　13:30〜
6月24日(日)　岡田 愛ソプラノコンサート　13:30〜
7月 1日(日)　開館20周年記念展　【美に焦がれて-蒐集もまた芸術である-洲之内徹・大川栄二・梅野隆の眼展】
オープニング・講演会(原田 光氏)　13:30〜

■ 施設情報、開館案内

東御市梅野記念絵画館　http://www.umenokinen.com/
〒389-0406　長野県東御市八重原 935-1　TEL0268-61-6161
FAX0268-61-6162　umenokinen@ueda.ne.jp

開館時間　午前 9 時〜午後 5 時(4 時 30 分迄にご入館ください)
入館料　600 円(高校生以上)団体割引 500 円(15 名以上)
身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。
休館日　4 月 9、16、23 日 5 月 1、7、14、21、28 日 6 月 4、11、18 日

■アクセス

お車　練馬 IC から 2.5 時間

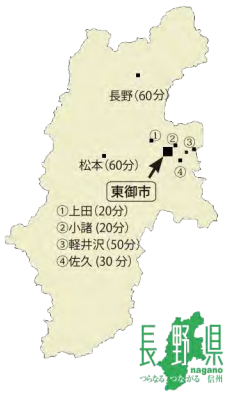
◆関東、北陸方面から
上信越道東部湯の丸インターから 15 分

◆中部、関西方面から
長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間

鉄道　東京から最速 2 時間
しなの鉄道「田中」下車、タクシー15分

◆関東、北陸方面から
北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中 下車。

◆中部、関西方面から
特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換。田中下車



地域の情報をラジオで発信！　Tune Now!
エフエムとうみ 78.5MHz
リクエスト、メッセージは
m@fmtomi785.jp

時代の証言者
小貫政之助展

鳥と女

2018・4・8(Sun)〜6・24(Sun)

梅野記念絵画館　信州 東御市
www.umenokinen.com

4月8日 (日) オープニング・講演会 13:30〜
(小貫政之助を語る　御子柴大三・和田章一郎)

東御市梅野記念絵画館

〒389-0406　長野県東御市八重原935-1　TEL.0268-61-6161　FAX0268-61-6162

年譜

1925年（T14）　建築業小貫政吉の次男として東京市月島に生まれる。
1937年（S12）　東京市月島尋常小学校高等科卒業。
1939年（S14）　東京都世田谷区等々力に転居、本郷岡田三郎助美術研究所入所。第一美術白日会展「工場」出品。
1941年（S16）　太平洋美術学校専科入学。
1942年（S17）　同校本科二年に飛び級編入。
1944年（S19）　同校卒業、西多摩郡西多摩村羽村に転居。中島飛行機（株）三島工場設計課に動員。
1945年（S20）　召集され浜松飛行師団に所属、この時遺書として自画像を描き、他の4、5点を残し作品を焼く。8月、各務原飛行基地で終戦を迎え、復員する。
1946年（S21）　子爵堀秀孝の長女寿子と結婚。
1947年（S22）　妻寿子死去、現代美術研究会の会員になる。モデルを求め文化学院美術部入学。翌年中退。
1949年（S24）　現代美術展に「老いらくの情死」他 5点を出品し、努力賞受賞。日本アンデパンダン展出品。
1950年（S25）　片桐妙子と結婚、東京都福生町熊川に転居。現代美術展会員努力賞受賞。
1951年（S26）　長男大介誕生。
1952年（S27）　現代美術展を離れ自由美術展に初出品する。
1953年（S28）　美術評論家瀧口修造、彫刻家木内克の推薦によりタケミヤ画廊にて個展。
1955年（S30）　グループ・ポアン展（江見崇、木村鉄雄、杉原清司、大家鋭郎、西八郎、根岸正、羽田重亮、早川重章、前田常作、吉沢進）結成。
1956年（S31）　自由美術家協会会員となる。その後自由美術展に1967年まで出品。
1957年（S32）　フォルム六人展（銀座フォルム画廊）に松田正平、網谷義郎、西村功らと出品。（メンバーは変動するが亡くなる前年の1987年まで出品した）
1960年（S35）　60年安保闘争デモに参加。
1968年（S43）　自由美術家協会退会。
1969年（S44）　新潮社の『新潮』の目次、扉、カットの装画を1987年まで担当。
1970年（S45）　黒岩重吾著『蒼ざめた虹』表紙を装画。以後黒岩重吾出版の著書の装画を担当。
1972年（S47）　フジテレビ・ミュージックギャラリー「小貫政之助の世界」に出演する。
1978年（S53）　小貫政之助銅版画集《小世界》をフジテレビギャラリーより出版。
1980年（S55）　長男大介死去。
1981年（S56）　7月、サイパン、テニアン、ロタ、グアムへ戦跡巡礼の旅に出る。
1983年（S58）　黒岩重吾に初めて会う。以来交遊が深くなる。
1988年（S63）　6月、膵臓癌のため死去。享年63歳。
1989年（H1）　「小貫政之助の世界展」を池田20世紀美術館にて開催。「小貫政之助遺作展」を毎日ギャラリー・神田にて開催。
1991年（H3）　橋本三郎・小貫政之助「想い出展」をフォルム画廊にて開催。
1992年（H4）　「小貫政之助展」を新宿小田急グランドギャラリーにて開催し、138点出品。『小貫政之助作品集−業と魔性のポエジー』が出版される。

（1992年発行『小貫政之助作品集』より）

自画像

女体

女

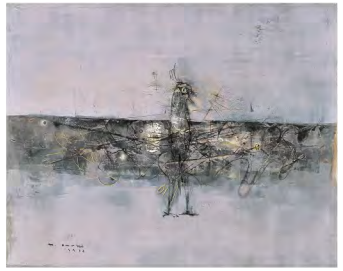
女

Lからの作品

蛾

女

裸婦


鳥

魚

抽象アブストラクト

かに